

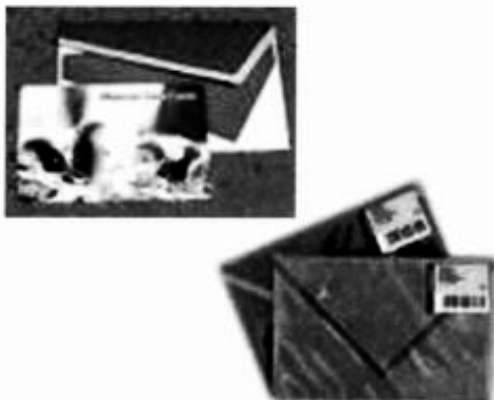
私立探偵 K-FILE

人探し(1) case#3

東京、ニューヨーク、ロサンゼルスで 経験した出来事を赤裸々に語る新連載！ 私立探偵ケンジの実話体験「調査日誌」

人探しは最近急増している依頼の一つである。

人探しと一口に言ってもその内容は様々であり、旧友や恩師の連絡先調査から海外で行方不明になってしまった留学生の調査、また日本の不動産の所有者や相続人が移住して物件を処分出来ないで探し出してほしいといったものもある。ちなみに記事としては提供出来ないが、見つけ出した日本人留学生が犯罪に巻き込まれており、家族にも連絡出来ずに腐敗した生活を送っているケースも珍しくない。拉致・暴行、レイプ、麻薬漬けにされて売られるという映画のような話も実際に存在する。留学中の方々にはくれぐれも注意してほしい。



さて、今回の依頼人は日本在住の30代女性。8年前前にアメリカに留学した際、アメリカ人のボーイフレンドがいたとのこと。彼とは結婚も誓い合っていた間柄だったらしいが、諸事情により依頼人は日本へ帰国し、その男性は海軍に入隊。その後お互い別の相手と結婚し、そして離婚したらしい。それ以来音信不通となっている彼の婚姻状況と連絡先を調べてほしいという依頼内容だった。メールのメッセージには“今でも彼のことが忘れられず、新しい恋愛が出来ません。彼の近況を知って気持ちの整理をつけたいので是非調べて下さい”というコメントが付け加えられていた。

依頼人から提供された情報は対象者の通称名、生年月日、当時の住所及び出身大学。また、最後に彼から買った手紙にはジェニファーという女性と同棲していると書かれてあったらしい。これらの情報を基に早速調査を開始した。まずは調査ネットワークから対象者の正式名を確認する。対象者の通称はミドルネームであること、N州のS郡とL郡近辺を転々としていること、いくつかのペーパーカンパニーを持っていること、対象者の叔父が会社を経営していること、そしてS郡郊外に対象者とジェニファー名義の一戸建てがあることが判明した。



ジェニファーのラストネームは対象者と同じのものであり、二人は同棲後に結婚してそこに居住している可能性が高い。順調なスタートと安心したのもつかの間、二人がそこに間違いなく居住していることの確認がどうしても取れない。現地に調査員を派遣すれば話は簡単だが、相場は一時間80ドルで最低6時間から。今回の依頼人は個人であり、そこまで負担させる訳にはいかない。また、婚姻記録についてもS郡とL郡、近郊の郡まで範囲を広げて調査したが何も出てこない。ジェニファーの実家や我々が把握している場所以外で届けがなされているに違いない。調査していることを相手に悟られないようにするため、通常は対象者やその家族に接触することを極力避ける。

しかしながら今回は最後の手段として対象者の叔父に対して調査電話を行うことにした。これはPretext Callと呼ばれ、例えば友人等の架空の人物になりすまして電話で情報入手する方法である(我々にとっては合法)。電話一本であらゆる情報を聞き出すこの調査には特殊な技術が必要だ。私は知る人ぞ知る“Pretext Callのクイーン”と呼ばれるNという女性探偵にコンタクトを取った。

[プロフィール]

ケンジ yamaken@agnusa.net
神奈川県出身。ニューヘイブン大学、大学院上級捜査コース修了。日本の危機管理会社で探偵・ボディガード業務に従事した後、本場の技術を学ぶために渡米。ニューヨークの探偵社にて経験を積む。その後カリフォルニアに移り、私立探偵ライセンス取得。現在はL.Aを拠点に調査業を展開中。



“今月は3件目だけど、随分羽振りによさそうじゃないの、ケンジ?”いつも彼女はそんな風に答える。彼女は対象者の大学時代の同級生という設定で電話し、対象者の叔父から見事に情報を引き出した。そして対象者は5年前にジェニファーと結婚し二人の娘がいること、名義物件は賃貸していること、対象者家族はL郡のI市に住んでいることが分かり、電話番号も入手した。念のためI市の対象者宅近隣にも聞き込みを行い、間違いなく対象者一家が居住していることも確認。電話番号も間違いなく対象者のものであることを確認した。別途ジェニファーの経歴、出身地、住所歴についても調査を行い、彼女の以前の住所地にて彼らの婚姻届けがなされていることも分かった。

以上の内容を依頼人へ最終報告した。私の仕事は事実を調べて報告することであり、それ以上でも以下でもない。しかし今回は彼女の気持ちを考えると複雑な心境にならざるを得なかった。今まで所在調査を行ってきて感じたこと。それは後味が悪いケースが多いことである。探偵でなければ見つけることが出来ない対象者には何らかの事情があり、また探偵を雇ってまでも見付け出したい依頼人にも必ず何らかの事情がある。そんなことを考えさせられたケースだった。